大学で学んだことを生かし、先頭に立って社会に貢献する人材を育てたい

大阪府 私立 開明高等学校

大正3年（1914年）に設立された「大阪貿易語学校」を起源とする開明高等学校。平成26年（2014年）に創立100周年を迎え、現在は「新鮮で活気あふれる共学の進学校」として注目を集めています。勉強のみの教育に偏ることなく、年2回の宿泊合宿をはじめとした多彩な行事を実施し、これらの取り組みを通して人間力を育んでいます。同校は、学びに対する視野を広げることを目的に、夢ナビライブへの団体参加を大阪会場初年度（2011年）から続けています。学びたいことを研究テーマに落とし込み、具体的な進路決定をサポートするために講義動画の活用もスタートしました。

生徒に寄り添いながら、確固とした学びの日々をサポート

田中：本校では校訓に「研精して倦（う）まず」という言葉を掲げています。これは「勉学に励み自己を磨く」という意味です。中高一貫のコースには理数コースとスーパー理数コースがあり、いずれも「理数」という言葉がついています。これは、文系の進路を選ぶにしても、社会に出るにあたって理数系の素養は絶対に必要と考えているからです。

年間を通して多くの行事があることも本校の特徴です。全ての学年に4泊5日の宿泊行事があり、その他の行事も通して人間的な成長を目指しています。社会に出た時に、様々な場面で先頭に立つことのできる生徒を育成しています。

森：授業の中で、大学での研究につながる様々な分野が見えるような仕掛けを作ろうと、教員は腐心しています。取り組むことでやりがいが見えて、進路が見えてくることもあります。過去には生物に全く興味のなかった生徒が理科実習を通して興味を持ち、大学の進路選択につながったこともありました。

柳井：中高一貫校ということで、生徒とのつながりは卒業後も強いです。本校には「開明大学」と呼ばれる、現役生をサポートする有志のOB・OG団体があります。毎年夏に高校1年生を対象としたイベントが開かれますが、約50名の卒業生が所属し、大学での各学部の学びを紹介したり、ワークショップ形式で卒業生と在校生が交流したりと、多くの刺激が得られるものです。

森：卒業生にこのような企画を開いてもらったから、自分たちも卒業したら後輩へ、と良いサイクルが芽生えています。大学を卒業してからも自分の道を見つけ、頑張っている卒業生がいることは私たちにとっても励みとなっています。

生徒の世界を「広げる」ための学問研究の仕掛け

森：高校1年生の進路指導の一環として、夢ナビライブに参加しています。大学教員の講義を実際に聞いて、自分の進路をより明確にイメージさせることが目的ですが、他の高校からも多くの生徒が参加する様子を見て、大学を志す生徒が全国にたくさんいることを実感し、生徒たちは大学進学への意欲がより引き立てられているようです。

夢ナビライブでは講義を選ぶ視点が研究テーマであり、大学名や学部名から一歩離れて進路を考えられます。講義内容も多岐にわたり、たとえば「心理学」など名前だけではどのような研究がされているのか分かりにくい学問の内容も良く分かります。

田中：講義を受講する際は、自分が「これだ」と思っているもの以外の講義も必ず受講するよう指導しています。1年生はまだ視野を広げられる時期です。食わず嫌いをせず、大学で学ぶことができる多くの研究テーマに触れていってほしいです。

たまたま空いた時間に受けてみた講義が面白く、新しい世界が開けたという生徒もいました。今まで知らなかった自分に出会えることは、かけがえのない機会です。文理選択の希望が変わった生徒や、地方の大学を意識するようになった生徒もいました。

柳井：大学での学びにこれだけの選択肢があることを、インパクトを持って実感できる機会はあまりありません。知っているものしか選択肢にならないことを考えれば、広い世界があるとわかるだけでも、生徒にとっては有意義だと思います。また、様々な研究テーマを一か所でコンパクトに確認できるプラットフォームなので、進路指導をするにあたっても助かっています。

「この分野を学びたい」思いを明確にするために、学問研究を「深める」

森：夢ナビライブは1年生全員が参加する行事なので、事前に当日のスケジュールを立てた上で講義やイベントに参加します。一方夢ナビライブ講義動画サービスは気になったタイミングで視聴することができます。夢ナビライブで出会った新しい分野を自分だったらどう学ぶかという、自身の可能性を掘り下げていく姿勢も大切です。

1本1本の講義動画は、パンフレットに載っている学部や学科情報よりもさらに細かい、研究室単位の学びを知ることができるので、高校2年、3年と具体的に進路を絞り込む際にも、繰り返し活用させていきたいと考えています。生徒が自分の進路を真剣に考えた時に視聴できるのは効果的だと、心強く思っています。

田中：2年、3年の生徒たちへと活用の範囲を広げることはもちろんですが、生徒以外にも活用できるのではと思っています。我々教員が学問の最先端を学ぶツールとして、また夢ナビライブへの参加が難しい保護者が見ることで子どもの進路を考える一助にもできると考えています。動画サービスの活用方法は、期待も込めて模索しているところです。

柳井：夢ナビを通じて学問研究を深める中で、卒業する時には、「自分は大学でこれを学ぶんだ」という強い気持ちと期待感を持っていてほしいです。それを一緒に見つけて、目標にたどり着く力をつけることが、私たち教員にできることだと思っています。

田中：本校の進路指導では、大学を卒業した後、「どのような仕事に就きたいか」ということは必ずしも重要視しているわけではありません。そもそも学ぶとはどういうことか。仕事に就くための踏み台として大学があるわけではありません。私たち自身も、今後もぶれることなく、「知の世界」に入っていくこと自体の楽しみを生徒に伝えていきたい。

不確定な時代なので、今ある仕事がなくなることも、また新しい仕事が生まれることもあります。それでも、確かな学力をつけて大学で研究をする経験が生かされない社会はないはずです。大学で学んだことを生かして、社会に貢献する人材を育てていきたいです。

夢ナビライブ参加・夢ナビライブ講義動画サービスの活用

視野を広げる学問研究 × 思いを深める学問研究

- 自分が「これだ」と思っている以外の講義を受講させ、自分の世界を広げる。
- その分野について、「自分だったらどのように学ぶのか」を掘り下げる。